

平成19年度東京都・4市1町合同総合防災訓練を実施

9月1日の防災の日、東京都と昭島市・福生市・武蔵村山市・羽村市・瑞穂町の多摩地域4市1町による合同総合防災訓練が行われた。



台北市からきた救助犬が倒壊現場で活躍

今回の訓練には、海外からの支援隊の受入態勢を整備することを目的として、アジア大都市ネットワーク21「危機管理ネットワーク」の参加都市である、台北市救助隊が参加した。訓練のメイン会場において、台北市から来た救助隊が、救助犬を使って、倒壊家屋から負傷者を救出した。

その他訓練の結果は以下のとおりです。

今回の訓練は、エレベータ閉じ込めや、帰宅困難者となる「昼間都民」の搬送など、都市型災害に重点を置き、「連携」をテーマに、4市1町のほか、在日米軍、台北市、医療関係者や地元自治会等多くの参加者により実施された。

訓練は、午前7時15分に、マグニチュード7.3の東京都多摩直下地震が発生を想定。発災後直ちに、都庁舎周辺の防災住宅職員が都庁舎に、また、立川防災住宅職員が立川地域防災センターに参集した。

7時45分に、東京都災害対策本部が設置され、被害集中が予測される多摩北部・西部に自衛隊の派遣準備行動を要請した。

本部長の石原知事をはじめ各局局長や警察、消防、自衛隊などの幹部が集合し、都庁第一本庁舎9階にある防災センターで審議訓練が行われた。



葛西臨海公園では、神奈川や千葉の「昼間都民」が帰宅困難という想定の下、米海軍の揚陸艦「トーテュガ」にて横須賀港まで輸送された。在日米軍の実働部隊が防災訓練に参加するのは、昨年に続き2回目である。横田基地では、広域医療搬送訓練が行

われ、米軍のヘリコプターにて、けが人を搬送した。

羽村市では、トリアージと呼ばれる災害時医療訓練が行われた。トリアージとは、医療スタッフや医薬品等の医療資源が制約される中で、一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うため、傷病者の緊急度に応じて、搬送や治療の優先順位を決めることをいう。医療関係者約100名が参加し、適切な処置が執り行なわれた。



吹き抜けの3階からロープで一気に下降

メイン会場では、駅そばの商業施設において、エレベーターが途中で停止し、閉じ込められたという設定で訓練が行われた。警視庁の機動隊員が吹き抜けになっている3階からロープで2階まで下り、すばやく救出した。



陥没した道路に落下した車両から救出